

Title	彙報
Sub Title	Miscellany
Author	
Publisher	慶應義塾大学言語文化研究所
Publication year	2025
Jtitle	慶應義塾大学言語文化研究所紀要 (Reports of the Keio Institute of Cultural and Linguistic Studies). No.56 (2025. 3) ,p.i- xxi
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00069467-00000056-0402

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

彙 報

◇人 事（2024年1月～12月）

2024年 1月16日	北原 久嗣	アメリカへ出張（1月22日帰国）
2024年 3月 3日	野元 晋	ドイツへ出張（3月10日帰国）
2024年 3月 5日	北原 久嗣	香港へ出張（3月9日帰国）
2024年 3月10日	タンクレディ, クリストファー	フランスへ出張（3月19日帰国）
2024年 3月 8日	小池 和子	ドイツへ出張（4月4日帰国）
2024年 3月31日	岩波 敦子	所長退任
2024年 3月31日	岩間 一弘	運営委員退任
2024年 3月31日	杉本 智俊	運営委員退任
2024年 3月31日	松浦 良充	運営委員退任
2024年 3月31日	原田 晶子	兼任所員退任
2024年 4月 1日	糸川 麻里生	所長就任
2024年 4月 1日	藤木 健二	運営委員就任
2024年 4月 1日	小林 薫	兼任所員就任
2024年 4月 1日	小林 春夫	兼任所員就任
2024年 4月 1日	豊田 泰淳	兼任所員就任
2024年 4月 1日	宮島 舜	兼任所員就任
2024年 4月 1日	山本 成生	兼任所員就任
2024年 7月18日	小池 和子	ドイツへ出張（9月10日帰国）
2024年 8月 1日	折田 奈甫	兼任所員就任
2024年 8月18日	北原 久嗣	韓国へ出張（8月22日帰国）
2024年 9月30日	七字 眞明	運営委員退任
2024年10月 1日	糸川 麻里生	所長就任（重任）
2024年10月 1日	上枝 美典	副所長就任（重任）
2024年10月 1日	加藤 昌彦	副所長就任（新任）
2024年10月 1日	野元 晋	副所長就任（重任）

2024年10月 1日	嶋尾 稔	主事就任（重任）
2024年10月 1日	山下 一夫	運営委員就任

◇言語文化研究所特殊講座（2024年度）

サンスクリット初級Ⅰ・Ⅱ	月曜日 2 時限	入山 淳子
サンスクリット中級Ⅰ・Ⅱ	金曜日 5 時限	入山 淳子
アラビア語基礎Ⅰ・Ⅱ	月曜日 2 時限	野元 晋
アラビア語現代文講読Ⅰ・Ⅱ	月曜日 2 時限	榮谷 温子
アラビア語古典Ⅰ	水曜日 3 時限	太田 絵里奈
アラビア語古典Ⅱ	水曜日 3 時限	福永 浩一
アラビア語文献講読Ⅰ・Ⅱ	水曜日 2 時限	野元 晋
ヴェトナム語初級Ⅰ・Ⅱ	月曜日 4 時限	嶋尾 稔
ヴェトナム語中級Ⅰ・Ⅱ	オンデマンド	嶋尾 稔
ヴェトナム語文献講読Ⅰ・Ⅱ	オンデマンド	嶋尾 稔
ペルシア語初級Ⅰ・Ⅱ	木曜日 2 時限	水上 遼
ペルシア語中級Ⅰ・Ⅱ	木曜日 3 時限	水上 遼
タイ語初級Ⅰ・Ⅱ	火曜日 4 時限	ボンシー・ライト
タイ語中級Ⅰ・Ⅱ	火曜日 3 時限	ボンシー・ライト
トルコ語初級Ⅰ・Ⅱ	月曜日 2 時限	石丸 由美
トルコ語中級Ⅰ・Ⅱ	月曜日 3 時限	石丸 由美
カンボジア語初級Ⅰ・Ⅱ	金曜日 2 時限	福富 友子
ヘブル語初級Ⅰ・Ⅱ	水曜日 2 時限	山城 貢司
ヘブル語中級Ⅰ・Ⅱ	水曜日 4 時限	山城 貢司
古代エジプト語初級Ⅰ・Ⅱ	金曜日 3 時限	田澤 恵子
古代エジプト語中級Ⅰ・Ⅱ	金曜日 4 時限	田澤 恵子
アッカド語初級Ⅰ・Ⅱ	金曜日 3 時限	伊藤 早苗
アッカド語中級Ⅰ・Ⅱ	金曜日 4 時限	伊藤 早苗
日本手話初級Ⅰ・Ⅱ	水曜日 1 時限	數見 陽子

日本手話中級Ⅰ・Ⅱ	水曜日1時限	小林 京子
ビルマ(ミャンマー)語初級Ⅰ・Ⅱ	オンデマンド	加藤 昌彦
ビルマ(ミャンマー)語中級Ⅰ・Ⅱ	オンデマンド	加藤 昌彦

◇言語文化研究所公開講座（2024年度）

テーマ：『政治のある日常—古代ローマ共和政末期の社会と言論』

第1回 10月5日（土）14時00分～16時00分

講師：小池 和子（慶應義塾大学言語文化研究所教授）

演題：書簡の中の政治

第2回 10月12日（土）14時00分～16時00分

講師：友井 太郎（国際基督教大学非常勤講師）

演題：詩人と政治—カトゥルスの場合

第3回 10月19日（土）14時00分～16時00分

講師：内田 康太（法政大学文学部専任講師）

演題：政治集会とその役割

◇研究所雑報（2024年度）

言語文化研究所総会

2025年3月1日（土）

講師：杉本 智俊（慶應義塾大学名誉教授）

演題：「考古学から見るヤハウェー神教の成立」

◇慶應言語学コロキウム（2024年1月～12月）

2月28日（土）・29日（日）

演題：Beyond the Miracle Creed

講師：T. Daniel Seely (Eastern Michigan University)

Sandiway Fong (University of Arizona)

大石 正幸（東北学院大学）

北原 久嗣（慶應義塾大学）

司会：内堀 朝子（東京大学）

6月22日（土）・23日（日）

演題：ボックス理論における統辞論および音韻論・意味論とのインターフェイス

講師：中島 崇法（弘前大学）、齋藤 章吾（弘前大学）

堤 博一（都留文科大学）、廣川 貴朗（福井大学）

司会：中島 崇法（弘前大学）

コメンテーター：内堀 朝子（東京大学）、北原 久嗣（慶應義塾大学）

7月27日（土）・28日（日）

演題：Agree and Nominal Licensing in Syntactic Theory : On the Default
Specification of Case and Phase Heads

講師：森竹 希望（九州大学 / 日本学術振興会特別研究員 (PD)）

司会・コメンテーター：内堀 朝子（東京大学）、北原 久嗣（慶應義塾大学）

10月12日（土）・13日（日）

演題：ミニマリストプログラム30年の足跡

講師：林 慎将（南山大学）

司会・コメンテーター：内堀 朝子（東京大学）、北原 久嗣（慶應義塾大学）

11月25日（月）

演題：Explorations in Extending the Miracle Creed Framework

講師：T. Daniel Seely (Eastern Michigan University)

北原 久嗣（慶應義塾大学）

司会・コメンテーター：内堀 朝子（東京大学）

12月14日（土）

演題：On the Strong Minimalist Thesis (SMT): is there room for *there* in the
Workspace?

講師：Sandiway Fong (University of Arizona)

大石 正幸（東北学院大学）

コメンテーター：豊島 孝之（東北学院大学）、北原 久嗣（慶應義塾大学）

司会・コメンテーター：内堀 朝子（東京大学）

◇イスラームセミナー（2024年1月～12月）

10月3日（木）

講師：ライアナ・セイフ（アムステルダム大学准教授）

演題：Esoteric Aspirations and Occult Practice in Medieval Islam

（中世イスラームにおける秘教的な野望とオカルト実践）

10月19日（土）

講師：バーネット、チャールズ（ロンドン大学名誉教授）

演題：The Transmission of Arabic in the West: Letters, Words, Texts and Curricula

◇2024 Theoretical Linguistics at Keio (TaLK)（慶應理論言語学）

TaLK は理論言語学の分野でワークショップ、セミナー、学会等を開くフレームワークで、年毎にサブフィールドや担当者が替わる。

2024年度は加藤昌彦が担当し、ミャンマーとその周辺で話される諸言語についての研究集会を開催した。日時や参加者は下記のとおりである。発表と議

論には基本的にビルマ語を用いた。

テーマ：Myanmar Linguistics, State of the Art (2)

日程：2024 年 11 月 2 日（土）・3 日（日）

会場：三田キャンパス東館 G-Lab

参加者：Sai Kyaw Htun, Thu Thu Nwe Aye, Thuzar Hlaing, Kato Atsuhiko, Otsuka
Kosei, Shimizu Misato, Tanaka Koya, Huziwaru Keisuke, Kurabe Keita,
Okano Kenji, Yabu Shiro, Sawada Hideo, Hongyo Saori, Yin Yin May

◇共同研究（2024年）

公募研究

・「精神史における「声」と「テキスト」の創造的営為」

岩波敦子（代表）、赤江雄一、井口篤、井出 新、大黒俊二、大月康弘、
小野文、鎌田由美子、神崎忠昭、小池和子、後藤里菜、土橋茂樹、徳永
聡子、野元 晋、松田隆美、山内志朗

2024年3月に最終研究会を開催した。

・第9回研究会 2024年3月15日（金）13：00～17：30

「ペルソナ間で対話する神——初期キリスト教における旧約文書の活喩
法的読解——」土橋茂樹

「声・音声・音をどう書き残すか—楽器・楽譜・楽師考」上尾信也（ゲ
スト・スピーカー）

声とテキストの創造的営為に関して、報告者と参加者の間で活発な質疑応
答や議論が交わされ、各専門分野から多彩な知見を得るとともに、本テーマ
に関する考察を深める機会となった。今後は論文集の刊行に向けて各自準備
作業に入る予定である。（文中敬称略、文責・岩波敦子）

・「精神史における「言語」と「空間」をめぐる創造的営為と表象」

代表：鎌田由美子

研究分担者：井出新、岩波敦子、後藤里菜、アダム・タカハシ、野元晋、山本成生

研究協力者：赤江雄一、大黒俊二、小野文、神崎忠昭、小池和子、土橋茂樹、徳永聡子、中谷惣、納富信留、松田隆美、山内志朗

本年度はこれまでに、zoom および対面による研究会を4回実施した。

- ・第1回研究会 2024年4月21日（日）16:00－17:00 オンライン

顔合わせ、および今後の研究会に関する打ち合わせ

- ・第2回研究会 2024年8月9日（金）13:30－17:30 日吉

岩波敦子「中世ヨーロッパにおける合意形成の場とことば」

鎌田由美子「イスラーム庭園に見る言語と空間—ヨーロッパ、日本との比較を通じて—」

- ・第3回研究会 2024年10月27日（日）13:30－17:30 三田

アダム・タカハシ「徳と立法者：アリストテレス、アクィナス、ホッブズ」

山本成生「内陣仕切り研究のための基礎的考察1－研究史・用語・概史を中心—」

- ・第4回研究会 2025年1月26日（日）15:30－17:30 三田

神崎忠昭「カロリング期における「典礼」という「場」における「言葉」の位置付け——特にメッスのアマラリウスをめぐる——」

毎回、「言語」と「空間」をめぐる創造的営為と表象について、それぞれの専門分野の観点から研究発表がなされ、それについての活発な議論・意見交換が行われた。研究会のみならず、その後の懇親の場においても議論が深められた。
(文中敬称略、文責・鎌田由美子)

B方式

- ・「東南アジア諸言語研究会」

加藤昌彦（代表）、上田広美、岡野賢二、春日 淳、澤田英夫、清水政明、鈴木玲子、峰岸真琴

2024年に行った研究会の内容は下掲のとおり。1月21日と3月8日の研究会は、Zoom を用いてオンラインで開催した。

1月21日（日）：加藤昌彦が「Fabienne Martin の論文 “Non-culminating accomplishments” (2017) を読む」と題して発表を行った。

3月8日（金）：峰岸真琴が「2つの主観的な時間について」と題して発表を行った。

11月4日（月）－11月6日（水）：加藤昌彦が TaLK の参加者であるミャンマー人研究者 Thu Thu Nwe Aye 氏と共に加藤のビルマ語入門書『ニューエクスプレス＋ビルマ語』の音声や文法解説に関する検討を行った。

※付記：2023年9月に、加藤の前任者である三上直光教授が編集した報告書『東南アジア大陸部諸言語の「行く・来る」』『東南アジア大陸部諸言語の名詞句構造』『東南アジア大陸部諸言語の動詞句』『東南アジア大陸部諸言語の動詞連続』の4冊を電子化し、本塾の学術情報リポジトリ（KOARA）にて公開した。昨年の彙報で遺漏が生じたため、ここで報告する。

・「生成文法研究会：基礎仮説の再考」

北原久嗣（代表）、内堀朝子、成田広樹、杉岡洋子

本年度は、2月28日、29日、11月25日、12月14日の4日間にわたり、The Miracle Creed and SMT (Chomsky 2023) の枠組みを詳細に検討する集中セミナー（講師：T. Daniel Seely, Sandiway Fong、大石正幸、内堀朝子、豊島孝之、北原久嗣）を開催した。今後も慶應言語学コロキウム、国内外の学会・研究会と連携をとりながら、Merge と Minimal Search に基づく生成文法研究の基礎研究を推進したいと考えている。

・「手話文法研究会」

北原久嗣（代表）、松岡和美、内堀朝子

本年度は、6月9日、2024年春季ドイツ文法理論研究会研究発表会において、講演会「並べるよりも重ねる：手話言語の特性と日本手話の完了アスペクト」（講師：松岡和美）をドイツ文法理論研究会と共催した。本講演は、視覚言語の特徴を示す現象の一例として日本手話の完了アスペクトを考察する貴重な機会となった。今後も生成文法の枠組みのもと手話文法研究を推進し

たいと考えている。

・「比較文法研究会」

北原久嗣（代表）、斎藤 衛、瀧田健介、刺田昌信

本年度は、10月12日、13日の2日間にわたり、“ミニマリストプログラム30年の足跡”（講師：林慎将）と題して、Chomsky の代表的な論文をとりあげ、ミニマリストプログラムがどのような問題意識のもと理論を展開させてきたのかを再考した。今後も慶應言語学コロキウム、国内外の学会・研究会と連携をとりながら、生成文法研究、とりわけ日英語の比較研究の視点から理論的展開を追求したいと考えている。

・「生成文法の哲学的意義」

北原久嗣（代表）、西山佑司、阿部 潤、小町将之

本年度は、7月27日、28日の2日間にわたり“Agree and Nominal Licensing in Syntactic Theory: On the Default Specification of Case and Phase Heads”（講師：森竹希望）と題して、若手生成文法研究者がリードする集中セミナーを開催した。具体的には一致と格の問題を捉え直す仮説群を詳細に検討した。今後も慶應言語学コロキウム、国内外の学会・研究会と連携をとりながら生成文法研究の指導仮説の研究を進めたいと考えている。

・「生成文法と言語教育」

北原久嗣（代表）、西貝裕武、外池滋生

本年度は、6月1日に西貝裕武、外池滋生、北原久嗣の三者が久しぶりに対面で研究会を開催した。研究会では、英語教育の現状問題を整理するなか課題を絞り込み、生成文法研究の到達点から日英語の句構造に関する普遍的特徴を抽出することはできないか検討した。今後も慶應言語学コロキウム、国内外の学会・研究会とも連携をとりながら研究を進めたいと考えている。

・「中東の一神教的思想風土における哲学的伝統の受容と変容」

野元 晋（代表）、青木 健、太田絵里奈、菊地達也、高橋 厚、高橋英海、俵 章浩、矢口直英、藁谷敏晴、中西悠喜、平野貴大、山城貢司、相樂悠太、小野春夫、豊田泰淳、宮島 舜

本年度は参加メンバーの多忙もあり、残念ながら休会となった。本年度終わりから来年度初めにかけてなるべく早くに再開したい。活動としてはまずは読書会を考えているが、哲学とスーフィズムなど、他のジャンルとの関連が議論されてきた著作（例えばスフラワルディーの『照明の哲学』 [*Hikmat al-Ishrāq*]、また関連は概ね否定されているもののイブン・スィーナーの『示唆と勧告』 [*Al-Ishārāt al-Tanbīhāt*] など）を考えたい。

昨年度から今年度にかけてスフラワルディーの魔術系の著作の翻訳を計画したが、それを活かしつつ、次年度からは近年議論されているオカルト系諸学と哲学とスーフィズム、そしてシーア諸派との間の——スフラワルディーの体験の知の理論化への模索などを例にとって——理論的接点について考究していく。

・「意味論研究会」

タンクレディ・クリストファー（代表）、今仁生美、金沢 誠、楠本紀代美、中西公子、島田純理、星 浩司、テーボルト・ジョセフ

活動内容はメンバーと招待研究者の意味論関係の研究発表である。2024年に開催した研究会は次の通りである。

November 15, Kimiko Nakanishi

October 16, Sam Alxatib

August 21, Takanobu Nakamura

July 26, Chris Davis

July 5, Junko Shimoyama and Bernhard Schwarz

April 5, Mats Rooth and Dorit Abusch

March 22, Kristina Liefke

February 13, Yasutada Sudo and Muyi Yang

January 12, Yasutada Sudo

・「ラテン文学研究会」

小池和子（代表）、逸身喜一郎、井上秀太郎、上野慎也、内田康太、大芝芳弘、兼利琢也、小林 薫、田中 創、日向太郎、吉田俊一郎

昨年に引き続き、Cicero, *Pro Sulla* の読書会を、ほぼ一月に一回のペースで実施した。

・「マイボイス研究会：自己の音声の獲得・喪失・再生」

川原繁人（代表）、佐々木美帆、佐野真一郎、杉岡洋子、杉山由希子、深澤はるか、皆川泰代、有井 巴、磯部美和、岡部玲子、小林ゆきの、増田斐那子、桃生朋子、折田奈甫

本研究会では、2024年はおもに「言語の獲得」に焦点をあて、生成 AI 搭載おしゃべりアプリを子どもに与える危険性について議論を重ねた。その結果、この危険性を社会に対して積極的に意見発信する必要を感じ、『一冊の本』（朝日新聞出版社）にて連載を始めた（2024年には、2本の論考を出版。連載は来年も継続予定）。この話題に関して、研究会のメンバーと共著論文を紀要に掲載した。文化庁においても、同内容の意見陳述をおこなった。

また後述の絵本も、広い意味で言語獲得に関わるプロジェクトと位置づけられる。絵本の続編の出版も決定しており、また、他の大手出版社とも幼児用向けの書籍プロジェクトを始めた。

・「日本語音韻特性への数量的アプローチ」

川原繁人（代表）、佐々木美帆、佐野真一郎、杉岡洋子、杉山由希子、深澤はるか、Seunghun Lee、出丸 香、梶野早希子、竹村亜紀子、増田斐那子、桃生朋子、平田佐智子、熊谷学而、折田奈甫

例年通り、研究とアウトリーチのバランスを心がけた。アウトリーチのおもな成果として、『「あ」は「い」より大きい！？』の文庫化や『日本語の秘密』の出版、そしてとくに革新的であったのは、『絵本 うたうからだのふ

しぎ』の出版であろう。

音声学という学問を、プロの歌手（北山陽一氏）と漫画家（牧村久美氏）と共同で、子どもにもわかる絵本という形に落とし込めたことは、前例のないことだと言って差し支えないだろう。関連して、紀伊國屋新宿本店において BOOK MEETS NEXT 2024のオープニングイベントとして、北山陽一氏とトークライブに出演した。また、俵万智氏、Mummy-D 氏、川添愛氏、三木那由他氏など他分野で活躍する方々とのパブリックイベントにも積極的に参加した。

さらに特筆すべきは、上白石萌音氏から指名され『スイッチインタビュー』（NHK）に出演したことであろう。この出演がきっかけで、音声学・言語学の魅力を世間に広く知らしめる結果となった。その他、メディアの出演依頼は非常に多くあったものの、真面目に学問を紹介してくれる番組のみに出演した。詳細は雑報を参照。

また、研究成果も着実に積みあげており、JASA, JASA-EL, Phonology, Laboratory Phonology, Linguistics Vanguard など一流の学術雑誌に新たな論文が掲載（受理）された。国際的な共同研究は、現在進行形で続いており、来年も多く成果が期待される。Phonology および Language and Linguistic Compass の編集責任者も継続しておこなった。後者は、2024年で任期満了した。

・「漢喃資料研究会」

嶋尾 稔（代表）、Nguyễn Nam、清水政明、多賀良寛、八尾隆生、伊澤亮介、鷺澤拓也、吉川和希

引き続き、月一回程度、『條律』および Henri Oger 編 *Introduction Générale à l'étude de la technique du peuple annamite* の第三巻 Dessins originaux の講読を続けている。

さらに維新4年（1910）にハノイの玉山祠で刊行された『玉山經壇神化除災解難金冊』という宗教的テキストの講読を開始した。テキストの内容の理解というより字喃の一字一字に拘った勉強会であり、大学院生も参加している。

◇専任所員雑報

加 藤 昌 彦

- ・ 2024年1月21日 本研究所東南アジア諸言語研究会において「Fabienne Martin の論文 “Non-culminating accomplishments” (2017) を読む」と題して発表。
- ・ 2024年3月8日 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同利用・共同研究課題「『失敗』のフィールド言語学」において「カレン語研究における私の失敗」と題して発表。
- ・ 2024年3月 『慶應義塾大学言語文化研究所紀要』第55号に An analysis of Lae Kwekaw, an “ancient” Karen script と題する論文を掲載 (pp. 25–48)。
- ・ 2024年4月 Asian Languages and Linguistics 4.2 (John Benjamins) に Homeland of Karenic languages: From the perspective of plant names と題する論文を掲載 (pp.194–223)。
- ・ 2024年11月 11月2日と3日の2日間にわたり、三田キャンパス東館 G-Lab において国際研究会 TaLK (Theoretical Linguistic at Keio) 2024: Myanmar Linguistics, State of the Art (2) を開催した。このテーマで TaLK を開催するのは2019年に続き2回目となる。今回は、司会・発表・質疑応答に用いる言語を基本的にビルマ語（ミャンマー語）とし、英語や日本語は補助的に用いるのみとした。ミャンマー本国以外でビルマ語を用いた研究会が開催されるのは希有なことと思われる。参加者は、ミャンマー及びその周辺の言語を研究している研究者（ミャンマー人及び日本人）である。標準ビルマ語だけでなく、パロー方言、ヨー方言、シャン語、ラカイン語、マルマ語、ジンポー語、カレン語についての研究発表があった。
- ・ 2024年11月2日 上記 TaLK において、Applicative markers in Pwo Karen と題して発表（ハンドアウトは英語で作成したが発表に用いた言語はビルマ語）。
- ・ 2024年11月 『言語記述論集』18号（長田俊樹先生古稀記念特集号）に「ポー・カレン語におけるビルマ語由来の借用語と原語の音韻対応」と題する論文を掲載 (pp.73–112)。

- ・2024年度本研究所特殊講座「ビルマ（ミャンマー）語初級Ⅰ・Ⅱ」「ビルマ（ミャンマー）語中級Ⅰ・Ⅱ」を担当。2023年度文学部講義「言語学特殊Ⅲ（東南アジア言語学概論1）」「言語学特殊Ⅳ（東南アジア言語学概論2）」を担当。
- ・大阪大学人文学研究科・外国語学部2024年度講義科目「カレン語」を担当。
- ・東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究員。

川 原 繁 人

A. 書籍

1. 川原繁人 (2024) 『「あ」は「い」より大きい!?!』。だいわ文庫。
2. 川原繁人 (2024) with 俵万智・Mummy-D・川添愛・山寺宏一。『日本語の秘密～言語学者ことばの達人に会いに行く』。講談社現代新書。
3. 作：川原繁人・北山陽一 まんが：牧村久美 (2024) 『絵本うたうからだのふしぎ』。講談社。

B. 国際学術雑誌論文

1. Kawahara, Shigeto & Gakuji Kumagai (2024) Japanese speakers can infer specific sub-lexicons using phonotactic cues. *Linguistics Vanguard*. <https://doi.org/10.1515/lingvan-2024-0097>
2. Kawahara, Shigeto & Gakuji Kumagai (2024) The (non-)local nature of Lyman's Law revisited. *Laboratory Phonology* 15(1): doi: <https://www.journal-labphon.org/article/id/10808/>.
3. Breiss, Canaan, Hironori Katsuda & Shigeto Kawahara (2024, to appear) Token frequency modulates optional paradigm uniformity in Japanese voiced velar nasalization. *Phonology*.
4. Burroni, Francesco, Shigeto Kawahara & Jason Shaw (2024, to appear) Articulatory correlates of consonantal length contrasts: the case of Japanese mimetic geminates. *Journal of the Acoustical Society of America-EL*.
5. Cwiek Aleksandra et al. (5th among 13 authors) (2024) The alveolar trill is

perceived as rough by speakers of different languages. *Journal of the Acoustical Society of America* 156: 3468–3479.

C. 書評

1. Kawahara, Shigeto (2024) Review of Diana Archangeli & Douglas Pulleyblank: *Emergent Phonology*. *Phonology*, <https://doi.org/10.1017/S0952675724000058>.
2. 川原繁人 (2024) 自分事としての、あまりに自分事としての哲学.
書評：三木那由多『言葉の風景、哲学のレンズ』、『群像』.

D. Conference proceedings

1. 遠藤歩華・古澤里菜・鎌野慈人・川原繁人・Jason Shaw (2024) 日本語 wh 構文におけるアクセントの実現についての追実験. 日本音声学会予稿集.
2. Okabe, Reiko, Miwa Isobe, Shigeto Kawahara, Yukino Kobayashi, Yasuyo Minagawa, Saeka Miyahara, and Tomoko Monou (2024) Acquisition of passives and benefactives in Japanese: In reference to theory of mind. *Proceedings of BUCLD 48*: 355-366.

E. その他の著作

1. 上坂あゆ美・川原繁人・神門 (2024) AI 時代の「言葉」. 月刊ブレーン 2024年10月号.
2. 北山陽一・川原繁人・古澤里菜 (2024). さだまさしのアクセント研究 ～「秋桜」の順行・逆行分析から探る. 『さだまさし解体新書 ターヘル・サダトミア』. 大和書房.
3. 川原繁人 (2024) 経験がひらめきを産む『Numero』.
4. 川原繁人 (2024) お菓子の名前には本当に「パピプペポ」が似合うのか?『群像』.
5. 川原繁人 (2024) 生成 AI が言語習得に与え得る悪影響について. 『一冊の本 7月号』.
6. 川原繁人 (2024) 生成 AI おしゃべりアプリは子どもにとって毒か薬か. 『一冊の本 11月号』.
7. 川原繁人 (2024) 音声学的瞑想のすゝめ. 『同朋12月号』.

8. (聞き手) (2024) 話題の人：KREVA. 『三田評論 7月号』.
9. 北山陽一・川原繁人 (2024) ゴスペラーズ北山が教える面接で「失敗」しない方法 慶應大教授と意気投合する「すごい」体のしくみ. コクリコ.
10. 北山陽一・川原繁人 (2024) ゴスペラーズ「北山陽一」がこっそり受けた、慶応大「音声学」授業のスゴイ中身 歌手が「声」を自由に操れるワケ. 現代ビジネス.
11. 川添愛・川原繁人・三木那由他 (2024) ChatGPT の発話の背後に人間はいるのか? 群像 online.
12. 川原繁人 (2024) 研究 (と人生) を楽しむ. 日経サイエンス.
13. 川原繁人 (2024) コミュニケーションの奇跡を見つめ、「音声言語の価値」に目を向けよう. Fole 4月号.
14. 川原繁人 (2024) それが先生にとって悩みだったら……『暮らしの手帖32号』.
15. 川原繁人 (2024) 歌手や声優になりたい人必見、音声学者が教える“声”の秘密. 現代ビジネス.
16. 古澤里菜・浅野真菜・川原繁人 (2024) 城南海氏のこぶしの分布に関する考察: 言語学的観点から. REPORTS of the Keio Institute of Cultural and Linguistic Studies 55: 49-64.

F. 学会企画

1. Theoretical Linguistics at Keio (TaLK) 2024. ことばを楽しむことばで楽しむ—言語芸術の地平—【鼎談】俵万智 / Mummy-D/ 川原繁人.

G. メディア出演

1. 『スイッチインタビュー (w/ 上白石萌音)』 (NHK)
2. 『ほぼ日の学校』
3. 『チコちゃんに叱られる!』 (NHK)
4. 『GROWING REED』 (J-WAVE)
5. 『眠れない貴女へ』 (NHK-FM)
6. 『Dr. トーコのラジオ診療室』 (STV Radio 1440kHz)

H. 招待講演

1. 川原繁人 (2024) 言語学者、小学生に音声学を教えてみた. 12月1日. 兵庫教育大学言語表現学会.
2. 川原繁人 (2024) 生成 AI おしゃべりアプリは子どもにとって薬か毒か. 9月26日. 文化庁国語課言語資源小委員会.
3. 川原繁人 (2024) ことばのサイエンス——音のふしぎと名前のふしぎ. 9月21日. 早稲田大学.
4. 川原繁人 (2024) 言語学者、小学生に音声学を教えてみた. 6月22日. 愛知県国語教育研究会高等学校部会.
5. 川原繁人 (2024) ことばの科学入門. 6月8日. 朝日カルチャーセンター. 立川教室.
6. 川原繁人 (2024) ことばのプロに知ってもらいたい音声学のアレとかコレとか. 5月24日. 日本語音声コミュニケーション学会.
7. 川原繁人 (2024) 音声・滑舌を科学する. 4月19日. NHK アナウンス室.
8. 川添愛・川原繁人・三木那由他 (2024) 特別鼎談イベント「ことばって何?」. ブックファースト新宿店.
9. 川原繁人 (2024) GrammarXiv 音声学・音韻論をたっぷり語ろう! 3月12日. 国際基督教大学.

I. 学会発表

1. Canaan Breiss, Hironori Katsuda & Shigeto Kawahara (2024) Frequency-conditioned variation constrained by the grammar in Japanese nasalization. *Laboratory Phonology* 2024.
2. Shigeto Kawahara & Gakuji Kumagai (2024) Japanese speakers can infer specific sub-lexicons using phonotactic cues. *Phonological Society of Japan*. June 22nd.

J. 学術雑誌編集

1. *Phonology*, Associate Editor (継続)
2. *Language and Linguistic Compass*, Area editor (継続)
3. Editorial board: *Natural Language and Linguistic Theory*, *Phonetica*, *Phonolog-*

ical Data and Analysis. (継続)

K. 学会アブストラクト審査

ICTEAP, JK, LabPhon, NELs, WCCFL

L. 学術雑誌査読

Japanese Journal of Cognitive Psychology, Journal of International Phonetic Association, Journal of Phonetics

北 原 久 嗣

- ・ 2024年3月, 本研究所紀要第55号に“A Review and Reanalysis of Some Recent Developments from GK to MC, and Beyond”と題する研究ノートを執筆.
- ・ 2024年2月28日-29日, 慶應言語学コロキウムにおいて“Beyond the Miracle Creed”と題して共同発表.
- ・ 2024年3月6日, GLOW in ASIA XIV において“Merge and Minimal Search: A Preliminary Sketch from GK to MC and Beyond”と題して招待講演.
- ・ 2024年8月19日, 2024 SMOG & ANU International Conference on Syntax and Semantics において“Merge and Minimal Search: from GK to MC and Beyond”と題して招待講演.
- ・ 2024年11月23日, 日本英語学会第42回大会シンポジウムにおいて“Understanding and Extending the Miracle Creed Framework”と題して共同発表.
- ・ 2024年11月25日, 慶應言語学コロキウム において“Explorations in Extending the Miracle Creed Framework”と題して共同発表.
- ・ 大東文化大学大学院文学研究科・文学部に出講.
- ・ 清泉女子大学大学院人文科学研究科・文学部に出講.
- ・ 2024年度科学研究費助成・基盤研究 (C)「併合操作に基づく日英語比較研究: 構造依存性なぜ言語の普遍的特性として現れるのか」(研究代表者)に従事.
- ・ 日本言語学会 評議員
- ・ 日本英語学会 理事
- ・ Linguistic Society of America

小 池 和 子

- ・言語文化研究所紀要第55号に「キケロー『ブルトゥス』試訳（V）：§ 94～§ 126」を執筆（2024年3月刊）。
- ・『神・自然・人間の時間——古代・中近世のときを見つめて』（徳永聡子編、慶應義塾大学言語文化研究所刊、2024年3月）に「キケローと暦、日付——書簡集を中心として」（pp.27-52）と題する論文を執筆。
- ・*Thesaurus Linguae Latinae* Vol.XI, 2. Fasc. XI（2024）に *revideo* 及び *reviso* の項目を執筆。
- ・言語文化研究所・2024年度公開講座「政治のある日常——古代ローマ共和政末期の社会と言論」にて、「書簡の中の政治」と題して講演（2024年10月5日）。
- ・2024年度春学期に「西洋古典学Ⅰ」、「ラテン語文献講読Ⅰ」、「ラテン語文献講読Ⅲ」、「ラテン語中級Ⅰ」、同秋学期に「西洋古典学Ⅱ」、「ラテン語文献講読Ⅱ」、「ラテン語中級Ⅱ」（以上文学部）、「プロジェクトⅡ（西洋中世研究）」（文学研究科）に出講。
- ・2024年3月8日～4月4日にドイツ連邦共和国に出張し、Bayerische Akademie der Wissenschaften 所属の *Thesaurus Linguae Latinae* で辞書編纂作業に従事（動詞 *roto* の研究及び項目執筆）。
- ・2024年7月18日～9月10日にドイツ連邦共和国に出張し、Bayerische Akademie der Wissenschaften 所属の *Thesaurus Linguae Latinae* で辞書編纂作業に従事（動詞 *roto*、形容詞 *notabilis* の研究及び項目執筆）。

嶋 尾 稔

- ・2024年3月 本研究所紀要第55号に「20世紀初頭北部ベトナムの料理・食品の一覧表」と題する研究ノートを執筆。
- ・2024年度 本研究所特殊講座「ヴェトナム語初級」「ヴェトナム語中級」「ヴェトナム語文献講読」を担当。
- ・2024年度 本塾文学部に出講。「東洋史学特殊」を担当。
- ・2024年度 東洋文庫研究員

- ・2024年度 京都大学東南アジア研究所学外研究協力者
- ・三田史学会委員、東洋文庫図書委員・編集委員

タンクレディ、クリストファー

論文の執筆

“Functions, Arguments, and Semantic Types, Chapter 4 of *Introduction to Semantics for Non-native Speakers of English*”, *Reports of the Keio Institute of Cultural and Linguistic Studies* 55, 2024.

研究発表

“Subjective Semantics in 5 Minutes”, Keio University, May 2024

“Subjective Semantics”, University of Nantes, March 2024

野 元 晋

- ・3月 「イスマーイール・シーア派における時間と永遠1：アブー・ヤアクブ・スィジスターニー（10世紀）を例として—その『王領への鍵の書』から第21章の邦訳と解題—」と題する研究ノート（アラビア語テキストの日本語訳）を『慶應義塾大学言語文化研究所紀要』第55号、pp. 277-294に発表。
- ・8月 「イスマーイール派のイエス・キリスト論」が佐野東生・久松英二編著『キリスト教徒イスラーム・対立から共生へ：神秘思想における聖人・悪魔論』（晃洋書房）第3章（pp. 55-70）として刊行。
- ・9月15日 パネル「啓示のその後——イスラームにおける「権威」の維持と継続」（代表者：井上貴恵）に参加し、「イスマーイール・シーア派とイマーム不在の問題（権威の担い方と担い手たちの問題を中心に）」と題して日本宗教学会第83回学術大会（於 天理大学杉之内キャンパス）にて研究発表。
- ・11月 訳・付記・注を担当した、アンワル・イブラヒム「（講演録）諸文明の祝祭——井筒俊彦の生涯と心」が『三田評論』（慶應義塾大学出版会、

- 2024年11月号) pp. 52-62 (うち担当部分 pp.54-62) に掲載・発刊される。
- ・ 4月より 本研究所特殊講座「アラビア語基礎Ⅰ」(春学期)、「同Ⅱ」(秋学期)を担当。
 - ・ 4月より 本研究所特殊講座「アラビア語文献講読Ⅰ」(春学期)、「同Ⅱ」(秋学期)を担当。
 - ・ 4月より 本塾大学文学部に出講、「哲学倫理学特殊ⅠC」(春学期)、「哲学倫理学特殊ⅡC」(秋学期)、「東洋史特殊ⅠK」(春学期)を担当。
 - ・ 4月より 本塾大学大学院文学研究科に出講、「東洋史特殊講義ⅠVC」(秋学期)を担当。
 - ・ 9月より 早稲田大学文学部(文学学術院)に出講、中東イスラーム研究コース設置科目「中東イスラームの宗教と思想2」(秋学期)を担当。
 - ・ 科学研究費助成事業・基盤研究(B)「イスラーム神秘主義と宗教的・政治的権威に関する総合的研究」(代表：澤井真 [天理大学おやさと研究所]) に研究分担者として参加。(継続：2023年4月より)
 - ・ 慶應義塾大学言語文化研究所公募研究プロジェクト「精神史における「声」と「テキスト」の創造的営為」(代表：岩波敦子 [本塾大学理工学部]) に研究分担者として参加。(継続：2024年3月に終了)
 - ・ 慶應義塾大学言語文化研究所公募研究プロジェクト「精神史における「言語」と「空間」をめぐる創造的営為と表象」(代表：鎌田 由美子 [本塾大学経済学部]) に研究分担者として参加。(新規：2024年4月より)